



魅力的な美しい花を咲かせる宿根草

シャクヤク

ここ数年、庭植えで楽しむガーデンプランツとして宿根草の人気が高まっていますが、の中でも特に花の美しさで注目を集めているのがシャクヤクです。シャクヤクといえば、「立てばシャクヤク、座ればボタン」のことわざで知られるように、豪華な花の代名詞としてあまりにも有名な花ですが、今まで充実した苗の流通が意外に少なく、一般家庭の庭で楽しまれる機会はそれほど多くはなかつたようです。

ところがここ数年、新品種が数多く登場してきたことと、品質の良い大株苗の流通が増えてきたことで、素晴らしい花が手軽に楽しめるようになり、あらためてシャクヤクの魅力が再確認されてきたようです。品種としては切花向きの豪華な八重咲きのものが多いのですが、ガーデン向きのシンプルな一重咲きや半八重咲きも多数登場し、さらには香りのよいものや珍しい黄色系まで登場し、バラエティ豊かになりました。

植えつけの時期

開花の時期は翌年の初夏となります

が、植えつけはちょうどこの時期、9月

下旬から10月いっぱいが適期となります。花が咲くのはだいぶ先のことなので、ずいぶんと早い気がしますが、良い花を咲かせるためには、まだ寒さの来る前にしっかりと根を張らせておくことが重要なのです。植えつけが遅れると根の張りが少ないので花が小さくなってしまいますし、場合によつては花が咲かなくなってしまうこともありますので、早めの植えつけを心がけましょう。3~4年に一度の株分けもちょうどこの時期に行うと良いでしょう。

植えつけのポイントの一つは、芽を地上に出さないこと。苗として販売している状態では、丸々とした芽が見えないように植えられていることも多いのですが、これは販売のために充実した芽がわかりやすいようにしているだけなのです。実際に芽が露出していると根の張りが悪くなるため、必ず3~5cmほどは土をかぶせて植えつけます。場所はもちろん日当たりと水はけの良いところを選びますが、できれば西日は避けられるほうがよいでしょう。植えつけの時、元肥としてマグアンプKのようない緩効性の肥料を混ぜ込んでおくと後の手入れが楽になります。

植えつけのポイントの二つ目は、花が咲いたら、切り花にするのも良いのですが、できるだけ葉は切らないようにするのが来年も良い花を楽しむためのポイントです。もちろん花が散つたら、早めに花ガラを切りとり、実をつけないようにすることも大切です。病害虫はありませんが、もし葉に病害虫が発生したら早めに市販の園芸用の殺菌殺虫剤で防除しましょう。秋まで健康な葉を保てば、翌年にはさらにたくさんの花が咲いてくれます。

苗を選ぶ場合は、できるだけ大株で、株元に丸々と太った花芽のついた苗を選ぶのがコツ。もともと大型の宿根草で、四方八方に伸びた太い根に養分を蓄えるシャクヤクは、太い根がたくさんついているほど蓄えが多く、その分立派な花を咲かせてくれます。逆に小

苗を選ぶコツ



来年も良い花を楽しむ

さなポット苗では、太い根がほとんどついていないこともあります。花が咲かないことが多いようです。

植えつけのポイント

植えつけのポイントの一つは、芽を地上に出さないこと。苗として販売している状態では、丸々とした芽が見えないように植えられていることも多いのですが、これは販売のために充実した芽がわかりやすいようにしているだけなのです。実際に芽が露出していると根の張りが悪くなるため、必ず3~5cmほどは土をかぶせて植えつけます。場所はもちろん日当たりと水はけの良いところを選びますが、できれば西日は避けられるほうがよいでしょう。植えつけの時、元肥としてマグアンプKのようない緩効性の肥料を混ぜ込んでおくと後の手入れが楽になります。

花が咲いたら、切り花にするのも良いのですが、できるだけ葉は切らないようにするのが来年も良い花を楽しむためのポイントです。もちろん花が散つたら、早めに花ガラを切りとり、実をつけないようにすることも大切です。病害虫はありませんが、もし葉に病害虫が発生したら早めに市販の園芸用の殺菌殺虫剤で防除しましょう。秋まで健康な葉を保てば、翌年にはさらにたくさんの花が咲いてくれます。